

アフリカ・ウガンダの職業訓練事情

ポリテクカレッジ千葉
(千葉職業能力開発短期大学校)

山見 豊

1. はじめに

2004年3月から2006年3月までの2年間、職業訓練指導員研修プロジェクトの職業訓練専門家としてウガンダに赴任した。プロジェクトとはいえ、派遣されているのは私ひとりである。任務は、第3国研修の実施、指導員養成計画の策定、ナカワ職業訓練校業務支援である。日本のウガンダに対する技術協力の歴史は長く、これに関与した先輩諸氏、関係者の数はかなりにのぼる。私にとってアフリカは、はじめての体験でもあり少なからずのカルチャショック



写真1 スーパーマーケット屋上から町の眺め



写真2 ナカワ訓練校中庭でパーティ

クを味わった。ここでは、私が携わったプロジェクトの概要を中心にウガンダ国の職業訓練事情について紹介する。

2. ウガンダ国

アフリカ大陸をその赤道直下、インド洋から見ていくと世界第2位のビクトリア湖がある。この湖に接し北をスーダン、東をケニア、南をタンザニアとルワンダ、西をコンゴ民主共和国に囲まれている内陸国である。1962年に独立、現在の人口は2,700万人、首都はカンパラである。「日本の夏は猛暑ですが、そちらはもっと暑いことでしょう」とメールをいただいたが、この国の気候は平均標高1,200mの高地であるため、年中、日本でいえば夏の軽井沢で、緑が豊で過ごしやすい。

ウガンダは元来、豊かな農業国であった。過去、アミンの暴政と内戦などで荒廃したが現在は、国の北部、国境沿いを除けば長期政権のムセベニ大統領のもと、比較的平和でありここ2～3年アフリカの中では驚異的な経済成長率を上げている。

私は首都カンパラに住んでいた。大統領選をめぐって、ちょっとした騒動に出くわした以外、何のトラブルもなく過ごせた。ムセベニは、2006年2月3選を果たしている。2年前、あまり見かけなかった広告看板だったが、今は幹線道路のあちらこちらに目だっている。また、赴任中、大きなスーパーマーケットができ、日本食レストラン、韓国料理店ができた。

カンパラの街は、日本の中古車だらけで混雑している。ただ、2年目には、アフリカ中央の干ばつの

ため、ビクトリア湖の水面がさがり、計画停電が一日置きに発生、インフラの整備はまだみだである。この国の1人当たり所得（GNI/人）270米ドル（2004）で同年、日本のその値は3万7,180米ドルである。愕然とする経済格差である。



写真3 ナイル川の源流ジンジャ

3. ウガンダの職業訓練事情

① ウガンダの教育訓練制度

ウガンダは教育に熱心な国であるといわれている。ウガンダの教育は、旧宗主国イギリスがモデルとなったと思われる。初等教育は6歳から12歳までの7年間の義務教育、初等教育卒業資格認定の国家試験に合格した者が前期中等教育の4年間、またこれに終了認定試験に合格して後期中等教育2年間の教育を受けられ、またこの認定試験を受け大学に進む。大学は最短3年で学位がとれる。7・4・2・3年制である。これが、学校教育の基本ラインで、また、前期中等教育に並行して技術学校（3年間）、後期中等教育に並行して専門技術学校（2年間）がある。この職業ラインには、技術短大、技術総合大学（チャンボコ）がある。これに付随してと言うべきか、職業訓練ラインは、職業訓練センター（3年間）公立1校、職業訓練校（2年間）公立3校が存在している。職業訓練には、産業訓練法というものがあり有名無実となっている訓練税、徒弟訓練の規程はある。現在はトレードテストのみが生きている。

② ウガンダの教育政策

ウガンダは、貧困撲滅計画（PEAP）を国家政策として掲げ、2025年までに貧困を撲滅すべく政策実行を進めており、ヨーロッパをはじめ各先進国は、

ドナーでこれに応じている。なかでも教育訓練課題では、初等教育の無償化政策を進め、現在、その就学率は飛躍的に上昇（90%以上）、その成果を収めているところではある。また、ムセベニは大統領選で中等教育の無償化をも公約として唱えた。

現在、この初等教育課題は、その質が問われはじめてきているが、同時に、これを修了した子どもたちの行く先の問題（ポスト・プライマリー）、つまりは中等教育（前期・後期）に焦点は移行しようとしている。しかしながら、莫大な子どもたちの増加とともに、今後この問題のいくえは、最終的に雇用の問題、働く場所の問題へと移行するであろうことは容易に予想される。

これに対し、政府は中等教育の計画において、より職業教育訓練を重視する方針を打ち出し、10年先には、初等教育および前期中等教育からの進学者の半分以上を職業教育訓練に振り分けるという目標を打ち出している。しかしながら、この目標達成は、目標自体が持つ意味の問題とともに財政難、施設・設備、教授方法、人材など前途は多難である。

当方は、これらの課題解決の一端を担うべく、職業訓練指導員の養成を提案したところである。

4. ナカワ職業訓練校（1968年日本の技術協力で建設）

ウガンダには、公立の職業訓練校が3校（ナカワ、ルゴゴ、ジンジャ）、職業訓練センター（マスリタ）が1校ある。民間の職業訓練校、センターは300から400といわれている。

狭義の職業訓練分野といえば、これらがすべてとなるが、現在、旧労働省系の教育訓練施設は教育省内に統合されており職業教育訓練局の管轄となっている。この分類でいけば技術専門学校、技術短大がさらに加わってくる。

ドイツは、かつて、ルゴゴ職業訓練校を支援してきたが、現在は民間職業訓練協会を組織し、これを通じて民間の職業訓練施設の支援を実施すると同時に、ウガンダ国の職業資格構築の政策支援および最近では、指導員養成に意欲を示している。

わが国は、ウガンダに対し古くからナカワ職業訓

表1 養成訓練 2006年在籍数 ナカワ職業訓練校

科名	全日制		定時制		合計
	1年	2年	1年	2年	
電子科	19	23	47	30	119
電気科	18	22	27	21	88
機械科	17	20	11	9	57
自動車科	20	20	46	21	107
木工科	8	12	6	7	33
板金科	19	22	25	20	86
溶接科	18	17	17	4	56
合計	119	136	179	112	546

訓練校を通じて技術協力を実施してきた。

1968年からはじまり、不幸な時代もあったが、1997年改めて、ナカワ職業訓練校プロジェクト（5年間）として再開し、フォローアッププロジェクト（2年間）を経過し、次の職業訓練指導員研修プロジェクトとなっている。ナカワ職業訓練校自体は、中学校卒2年間の養成訓練を実施しており、科数7（電子、電気、機械、自動車、木工、板金、溶接）、学生総数、夜間の定時制を含めると5～6百名、指導員50名を超え、養成訓練のほかに向上訓練、企業からの委託訓練を実施している。

創立当初よりわが国が技術協力してきたナカワ職業訓練校の評価は、国の内外を問わず非常に高いものがある。ナカワ職業訓練校の技術・技能レベルは、ウガンダ国において一番というより東アフリカにおいて一番だといっても過言ではないと思える。

5. ウガンダ国職業訓練指導員研修プロジェクト

① 第3国・現地国内研修

第3国とは、ウガンダ外の国を指し、ここではケ



写真4 ナカワ訓練校 機械科

ニア、タンザニア、ザンビア、エリトリアの近隣諸国である。この近隣諸国と国内ウガンダの職業訓練指導員、技術短大の先生を研修の対象とする。指導するのは、もちろんナカワ職業訓練校の指導員である。1コース13名、3コース同時開催で期間は6週間である。研修コースは、デジタルIC、電子制御エンジン、PLC（プログラムコントローラ）の3コースについてである。

当該研修は、2004年1月に1回目が実施された。この実施前、2003年度に、近隣諸国のニーズ調査、および、これに関してのRDが締結されている。

この後を引き継ぎ、2005年1月に2回目、2005年7月3回目、2006年1月4回目を実施した。2005年度に年2回の実施としたのは、評判が良く、応募者が多いことから、JICAアフリカ指導部の指示を受けて年2回実施に踏み切った。

特筆することは、第3国研修の評判を聞きつけ、デンマークからの支援を受けたザンビアの公立短大4名に同様の6週間の向上訓練を実施したこと、研修中に職業教育訓練局の審議会メンバーの見学を受け、高い評価を受けたことなどである。

② 指導員養成計画の策定

2005年9月に、新規プロジェクト要望書（ナカワ拡充・指導員コース増設）が教育省より提出された。2004年8月に私案の職業訓練指導員養成プロジェクトの提案からみれば1年後のことである。

ナカワ訓練校側では、フォローアップ評価調査結果に沿うべく、2004年7月、新たにBORDを設けた。メンバーは15名で、教育・スポーツ省の職業教育訓練局長オキニアル、教育計画局長マリングおよび産



写真5 第3国研修 閉会式



写真6 第3国研修 デジタルIC

業界代表で柏田氏、DITキジトなどである。この機関を討議の場とし、新規プロジェクトのプロポーザルがウガンダ教育省より提出したのが前述のように2005年9月のことである。

この内容は、ナカワVTIの整備拡充による指導員養成コースを設ける案である。

関係機関との調整では、2004年11月教育セクターレビューへの参加をはじめ、民間職業訓練協会の集会への参加、ドイツ技術協力機構との連絡、協議、職業教育訓練局政策審議会への参加と実施した。また、ドイツとの協議では、ドイツは、ルゴゴ職業訓練校を中心に基礎レベルの指導員養成を、日本はナカワ職業訓練校を中心にさらにレベルアップした上級指導員養成を、という話が成立した。

③ ナカワ職業訓練校業務支援

現地業務支援として、インターネット接続、機器のメンテ、部品補充、広報活動を実施した。また、訓練内容を高度化するため日本からの短期専門家による技術研修を3コース計画した。内容は次の以下



写真7 白井短期専門家によるCAD研修

のとおりである。

A. メカトロニクス訓練

講師 北川 隆（北陸能開大）期間 7月27日～8月31日 対象者 指導員8名

特別講義 第3回第3国研修受講生39名ほか

B. マルチメディア訓練技法

講師 能美 英生（能開総合大）期間 8月10日～9月7日 対象者 指導員8名

特別講義 第3回第3国研修受講生39名ほか

C. CAD研修

講師 白井 泰吉（八幡ポリテク）期間 11月9日～12月21日 対象者 指導員12名

いずれのコースも好評で、ナカワ職業訓練校側で盛大な送別会が開催され、感謝の辞とともに記念品がてわたされた。また、これらの成果物は、10月4日から10日までの一週間、ウガンダの首都カンパラの産業センターで開催された2005年国際産業展に出展し、現地の新聞は、「ナカワ職業訓練校ウガンダではじめてのロボット製作」と大きくロボット写真付きで報じた。この延長戦上で期せずして、研修を終えた先生を中心に、ロボット研究会が創られた。



写真8 ナカワの展示ブースに集まる人

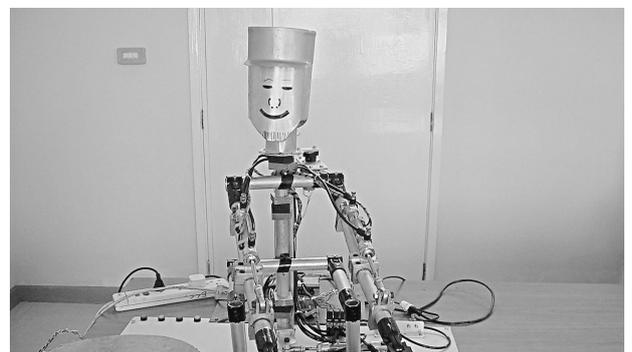


写真9 ウガンダ初太鼓打ちロボット

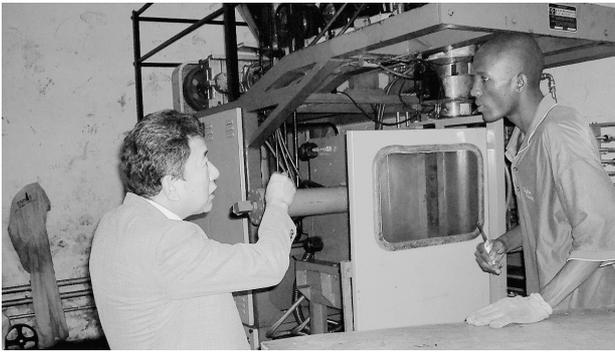


写真10 ナカワ修了生射出成形機操作

基本的に途上国においては、物がない、金がない。特殊な部品類は現地での入手が困難だし、見つけても予算がない。このため、現地職業訓練校の実技訓練においては、インカム・ジネレーションと称し、受託実習を実施している。

④ 調査研究活動

2004年度の調査としては、コミュニティスクールとその指導員養成カレッジを中心として教育訓練施設見学を実施した。これは、前専門家が纏めた職業訓練指導員ニーズ調査報告書の追認である。技術短大と看板を掲げているが、どこも実習設備は貧弱でありナカワ職業訓練校との差を歴然と見ることができた。

2005年度には、修了生（2003／4）の就職先企業調査を首都カンパラを中心として、24社を見学調査した。この状況を概括的に述べれば、まず卒業生の評判はすこぶる良く、どこでも高く評価されていること、また実際、懸命に仕事に励んでいる様子を見ることができた。しかしながら、構造はオーナがイ

ンド人、技術者がインド人であり、現場ワーカーがナカワ出身者である。雑談でナカワVTIに上級コースができれば来るかの問いに、ぜひ行きたいとの回答がもどってきた。また、同時に実施したアンケート調査では、在校中のトレーニングシステムに対しては10割が良いと賛同している。企業からも技能・知識を足りないとするところは1社もない。

6. おわりに

終わってしまえば、短い2年間とも感じられる。しかしながら、おかげで日本では感じることも、考えることもできない貴重な経験を積むことができた。そして、このなかで、途上国における日本の職業訓練技術援助の重要性と必要性を確信することができた。ここで関係者の皆さまに感謝申し上げる。そして、何よりも、ウガンダの教育省よりだされた職業訓練指導員コース設置のプロポーザルを日本政府が承認したという吉報を聞き、今後の技術協力に期待したい。

ところで、ウガンダと日本の経済格差について、冒頭で触れた。私は赴任中、現地の結婚式に2回参加した。1回目はナカワ訓練校の訓練課長の娘であった。田舎の家でまず紹介式を行うのであるが、100名は軽く超える人たちが集まり踊り、食事と大騒ぎである。この田舎の家を訪問して私は驚いた。見渡す限り、彼の家は敷地であり、牛やヤギが放牧され家族が住むりっぱな家がある。私は訓練課長に言った。「私は、日本に小さな家ひとつ手に入れない。貴方は私よりずっとずっとリッチである。」



写真11 結婚披露のパーティ



写真12 クイーンエリザベス国立公園